

「女の子なんだから手伝いくらいしてよ！」

私は家族と喧嘩してそんなことを言われたことがあります。その日は予定がなく暇だったにも関わらず、面倒くさくて家の手伝いをしませんでした。すると、忙しそうにしている家族に言われたのがその「言葉」だったのです。確かに手伝いをしなかったのは私が悪いと思います。しかし、「女の子」だからという言葉が私の心にひっかかって、素直に謝ることができませんでした。

昔の日本では、男性は勉強をして仕事をする、女性は小さい頃から家事をするのが当たり前だったそうです。現在ではそのような「男女差別」は改善に向けて、様々な条約や法律がつくられています。しかし、そのような法律がつけられている今も、男女差別は人々の心の中に根強く残っているのが現状です。

確かに家事ができるに越したことはありません。むしろ、できた方が人生を楽に豊かに過ごせるでしょう。しかし、それが女性である必要も男性である必要もありません。「人」としてできたら良いことではないのでしょうか。それは家庭だけではなく、学校や職場においても同じことが言えます。

私は、この体験を通して、「男らしく」や「女なんだから」という言葉は、性別にとらわれて相手を見ようともせず、突き放したものの見方から発せられるものだと思います。性別が女性だから家の手伝いをしなければならないという言葉に抱いた違和感は、この相手を知ろうともしない言葉にいらだちを覚えたからなのかもしれない。

そもそも、「男らしさ」や「女らしさ」とは何なのでしょう。私は、性別だけで相手を決めつけるのはよくないと思います。昔からのイメージにとりつかれて、相手の存在意義や行動を制限するというのは「人」として正しい行いなのでしょう。

このような言葉や行動に傷付いたり、疑問を抱いているのは、きっと私だけではありません。傷付いた多くの人々は、やがて自分の未来をあきらめ、また別の人に未来をあきらめさせるような言葉をかけてしまうのかもしれない。

そのようなことを考えているときに、ある一つの記事を目にしました。その記事に書かれていたのは、令和6年度より私の通っている学校やその学校周辺の中学校

の制服を統一するといった内容でした。そして、統一するにあたって、制服の案が4つほどあり、案をしぼるために学校でアンケートがとられることになりました。それぞれの制服に「デザイン性」や「洗濯のしやすさ」などのポイントがありましたが、その中で最も印象深かったのは「ジェンダーフリー」という言葉でした。

「ジェンダーフリー」とは、性別にとらわれずに、個人としての力を発揮することで、多様性が求められる現代で大切にされている言葉です。

制服のジェンダーフリーとは、具体的に、性別に関係なくスラックスやスカートを着用する、ネクタイやリボンを自由に選べる、などが挙げられます。スラックスやスカートを自由に選ぶことができるのは、ジェンダーフリーに関わらず、防寒や防犯にもつながります。

ジェンダーフリーを意識した制服は、今までの「女子はスカートやリボン、男子はズボンやネクタイ」という性別による固定観念をぬりかえるだけでなく、スラックスを履くことなどにより活動を活発にできる、脚にコンプレックスがある人のコンプレックスを隠すことができるなど様々なメリットがあります。

令和6年度から、もし制服が変わるとしても、個人の意思を尊重し、様々な着方を一人一人が認め合えば、「男女差別」は改善されるでしょう。

性別にとらわれず、性別によって相手の行動などを制限するような言葉をかけないこと。制服にはいろいろな着方があり、個人の意見を尊重し否定しないこと。それが今の私にできる男女差別をなくしていく方法だとわかりました。

世界では、未だに男女差別が強く根付いている国がたくさんあります。性別による差別的言動・行動を減らしていくために、そして、私のようにたった一つの「言葉」で傷付く人を一人でも少なくしていくために、昔からの固定観念をぬりかえ、「性別にとらわれない」という考え方を一人一人が持ち、今私たちにできる最善策を見つけ、実行していくことが大切です。そうすることで差別は減っていくのだと希望を持ちたいです。なぜなら、「人」は性別に関係なく、協力し合い、一人一人が輝く未来を、自分たちでつくっていけるのだから。